

費用対効果評価専門部会における当面(平成24年度)の論点・課題(案)

1. 医療保険制度における費用対効果評価導入のあり方に係る論点・課題

(1) 評価結果の活用方法

医療保険制度において評価結果を活用する場合、いくつかの対応が考えられる(具体的には下記の通り。)今後、それぞれの考え方についての長所・短所を踏まえながら、考え方を整理してはどうか。

① 制度対応や見直しの優先順位付け等

○費用対効果の評価結果に応じて、価格改定や保険導入の優先的な対応を実施する医療技術を特定する等の方法についてどのように考えるか。

② 価格評価への反映

○現行の価格算定方式との整合性等に配慮しつつ、加算等の手法により、費用対効果の評価結果を価格評価に反映させることについてどのように考えるか。

③ 保険収載の判断基準

○有効性・安全性等、従来の保険収載に係る判断基準との整合性に配慮しつつ、費用対効果の評価結果を保険収載の判断基準に反映させることについて、どのように考えるか。

④ その他

○医療提供者への情報提供等、上記①～③以外の評価結果の活用方法についてどのように考えるか。

(2) 評価対象とする医療技術の考え方

費用対効果評価の対象技術の選定方法として、いくつかの対応方法が考えられる(具体的には下記の通り。)今後、それぞれの対応についての長所・短所を踏まえながら整理してはどうか。

① 新規技術と既存技術

○対象となる技術の数等、新規技術と既存技術の違いをどのように対象技術の考え方に反映するか。

② 財政への影響

○財政影響の大きい技術を優先する等の方法について、どのように考えるか。

③ 革新性

○革新性の高い技術、低い技術それぞれを優先して評価対象とすることについて、どのように考えるか。

④ 代替性

○代替する医療技術が既に保険適用されている医療技術について、優先して評価対象とすること等についてどのように考えるか。

⑤ その他

○当該医療技術を使用する疾患の頻度や重症度等、上記①～④以外の対象技術の選定に係る考え方を整理してはどうか。

(3) 評価の実施体制

下記のような点について、今後整理してはどうか。

① 実施組織のあり方（行政組織との関係等）

○新しい作業チームを設ける等の追加的な対応も含め、医療技術評価分科会、薬価算定組織及び保険医療材料専門組織といった既存の評価組織における評価について、どのように考えるか。

② 外部機関（試験研究機関、大学等）との役割分担

○データの収集、収集されたデータの分析等について外部の試験研究機関や大学に依頼する等の対応について、どのように考えるか。

2. 評価の手法における技術的な論点・課題

(1) 評価手法

評価手法における論点について、それぞれいくつかの対応方法が考えられる。(具体的には下記の通り。) 今後、それぞれの対応についての長所・短所を踏まえながら整理してはどうか。

① 費用の取り扱い範囲、測定方法

○介護費用、障害者等のケアの費用、労働生産性損失等医療費以外の費用について、どのように取り扱うか

② 効果（アウトカム）指標や測定方法

○質調整生存年（QALY）も含め、効果指標をどのように考えるか。

○効果指標の測定方法をどのように考えるか。

③ 比較対照の設定

○比較対照とする技術についてどのように考えるか。(最も代替されうる医療技術の選定方法、それ以外の医療技術の取り扱い等)

④ 割引率

○費用及び効果について、割引を行うことについてどのように考えるか。(それぞれを異なる率で割引くことを含む。)

⑤ 評価の対象期間

○評価の対象期間について、どのように考えるか。

⑥ その他

○長期間の分析を行う際の不確実性への対応等、上記①～⑤以外の評価手法に関する論点にはどのようなものがあるか。

(2) データの取り扱い

費用や効果のデータの収集方法や取り扱いについて、それぞれいくつかの対応方法が考えられる。(具体的には下記の通り。) 今後、それぞれの対応についての長所・短所を踏まえながら整理してはどうか。

① データの収集方法

- データの収集主体(保険収載を希望する者、評価を行う者、第三者等が考えられる。)を含め、データの収集方法について、どのように考えるか。

② 海外データ取り扱い

- 費用データ、効果データのそれぞれの特性を踏まえつつ、海外データの取り扱いについてどのように考えるか。